

吉田さん

人生のパートナーを失う事が、こんなに辛いとは……。胸の奥に、ポツカリ空いた穴は、三年たっても、埋まりません。

でも、あなたも、最愛の奥様を十年前になくされたのですものね。

「ガンは恐ろしい病気です」

奥様の通夜の席で、ポツリ仰おっしゃったあなた。それと同じ病気で、夫も逝ってしまふとは……。

私達は、家族ぐるみの交際でした。子供達も同じ年頃で仲良し。その子供達も、それぞれ独立し、あなたも私も、古い木造の家に、一人暮らし。

ステキな男性であるあなたは、再婚の話が降る様にあった由。でも、子

優秀賞

供達の、

「ボク達のお母さんは一人で良い」の言葉が、男盛りのあなたに、独身を通させたのでした。

吉田さん、私は、あなたと結婚しようとは思いません。お互いに、子供や孫の有る身。トラブルは、七二歳の私には、耐えられません。又、あなたにも、そんな思いはさせたくありません。

ただ、年に二、三回、髪を栗色に染め、流行のファッションに身を包み、銀座のレストランで、あなたと、イタリア料理を楽しみたい。

私の胸には、あなたと亡き夫。あなたの胸には、私と亡き奥様。最愛の人に去られ、遺された人生を生きていかねばならない辛さ。その悲しみを共有し、お互いに、慰め合い、励まし合い……。そして、チョッピリ、恋の火をともし……。

吉田さん、私とデートする事で、あの色白の奥様への愛を、更にかきた

優秀賞

てて下さい。私も、優しかった夫への愛を再確認します。

そして、二人でワルツを踊りましょう。何時の日か、『吉田さん』から『清さん』、『伊東さん』から『百合子さん』となる日をね。

*夫をなくした私から、妻をなくした吉田さん（家族ぐるみの交際だった）への恋文。